

1. 第 5 期富良野市障がい者計画の振り返り

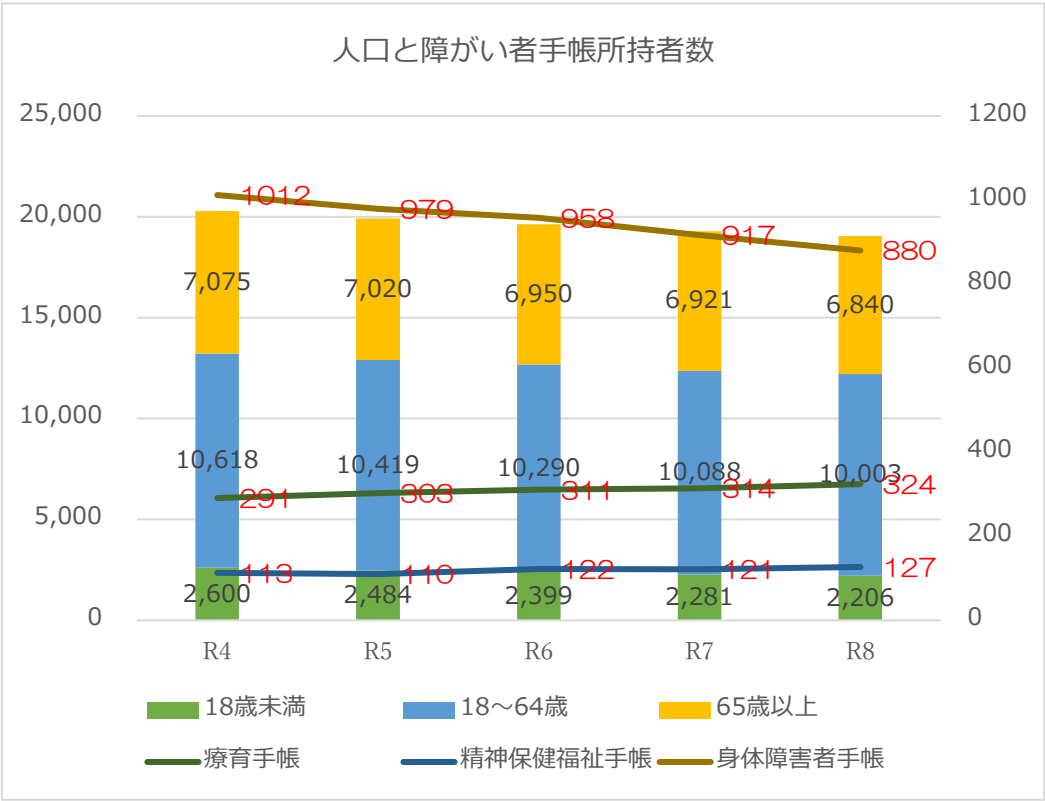
(1) 統計データから見える主要な変化

人口減少の進行: 令和 4 年の 20,293 人から令和 8 年には 19,049 人と 4 年間で約 1200 人（約 6%）の人口減少となりました。

支援ニーズのシフト: 身体障がい者は減少傾向。知的・精神障がい者は増加傾向にあり、支援のニーズが「身体から精神・発達」へシフトしています。

当事者の高齢化: 各種手帳所持者の 65 歳以上の割合が高まっており、「障がい者の高齢化」とそれに伴う介護者（親など）の高齢化が進んでいます。

子どもの支援: 特別支援学級の在籍者や加配保育の利用者が増えており、ライフステージに応じた切れ目のない支援体制の構築が急務となっています。



(2) 前回委員会のアンケート調査から見える当事者の困りごと

「移動」の壁: 「公共交通が少ない・ない」が外出の最大の障壁となっています。冬季間の移動や JR 駅の階段など、物理的制約が社会参加を妨げています。

「生活」を支える支援: 通院同行、服薬の見守り、金銭管理など、制度の枠組みを超えた日常的な支援ニーズが高まっています。

「災害への不安」の高まり: 避難所環境や服薬継続の心配があり、ハード面（設備）だけでなく、避難先でのケア体制（ソフト面）が求められています。

2. 本計画の検証を踏まえた次期計画に向けて

(1) 増加する精神・発達障がい者への相談・支援体制

現状：統計データおよびアンケート結果から、精神・発達障がいのある方の支援ニーズが増加しています。

検討事項：専門職の不足が深刻化する中、専門的なケアを維持しつつ、どのように地域の支え合いやボランティアを補完的に組み合わせたいけるでしょうか。

(2) 高齢化する障がい者世帯と地域での孤立防止

現状：障がい者本人および家族介護者の高齢化（8050 問題）が深刻化しています。

検討事項：緊急時の支援体制や日頃のちょっとした困りごとを拾い上げる「地域の支え合い」の仕組みをどのように強化・具体化していきますか。

(3) 社会参加の促進と「届く」情報発信の在り方

現状：障がい者への理解促進にはより多くの市民を巻き込む工夫が必要です。また制度があっても「どこに相談すればいいかわからない」という声も聞かれます。

検討事項：若年層や当事者に伝わる情報の届け方（SNS 活用など）について。また地域社会がより積極的に障がい者を理解・サポートする環境を作るためのアイデアについて。